



商工中金景況調査（2023年2月調査・定例分）の公表について

商工中金は概ね四半期に一度、中小企業の景況感をはじめとする実態把握のため景況調査を実施しており、今般2023年2月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果について公表しました。

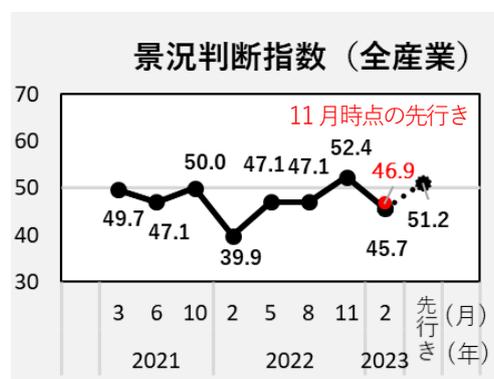
<2023年2月の景況感>

部材不足、諸コスト上昇、旅行需要一服などが重なり、景況感は悪化

自動車向け半導体等の部材不足が長期化しているほか、賃金や電力料金を含む諸コストの上昇、スマホ・データセンター関連半導体の需給悪化、「全国旅行支援」による観光需要押し上げ効果の

一服などが重なり、2月の景況判断指数は45.7と前回から一転して「悪化」超となりました。

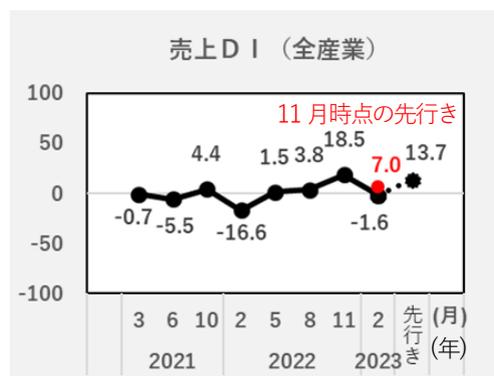
ただし、コロナウイルス感染症の5類への見直しや自動車生産復調への期待から、先行きの景況判断指数は51.2と再び「好転」超となる見通しです。



<2023年2月の業況判断>

【売上】電気機器を中心に製造業で減収が目立ち、1年ぶりに「減少」超

売上DIは、スマホ・データセンター向け半導体の市況悪化や車載半導体不足による自動車生産の遅れなどから、2月は-1.6と「減少」超となりました。



- ・本編資料は[こちら](#)をご覧ください。
- ・トピックス調査分(中小企業経営者が考える自社の諸課題と対応<仮>)は2023年4月下旬頃公表予定です。